

令和2年度 学校経営の構想

1 学校教育目標と目指す姿

学校教育目標



ひびき合い みんなでつくる 笑楽幸

「夢」と「自立」をキーワードとした
教育活動を盛り込む経営の推進

- 「夢」は、今日一日、明日、そして、未来に向かって頑張る自分自身の心の栄養、ご飯と捉える。
- 「自立」を目指す指導においては、「徳」「体」「知」のバランスを重視する。
- 子どもたちの一人一人の「つぼみ」は、人と人との「ひびき合い」で育む。

(1) 目指す子ども像

夢

《『夢』…明日を見つめる子》
自分のよさや可能性を發揮する子ども



- ・自分のよさや可能性を大切に子ども
- ・学校生活の向上を目指し、目標に向かって主体的に活動する子ども
- ・今よりも一つ上の自分を考えて頑張る子ども
- ・将来の夢に向かってチャレンジする子ども

「夢」は希望や志、目標に置き換えることができる。「夢」は、明るさとやる気を生み出す源である。生涯を通して追い求める「夢」もあるし、現時点で努力すれば達成が容易な「夢」もあり幅広く捉えることができる。

例えば……

- ①学校や学級、個人の目標など達成状況がすぐに分かるもの
- ②意欲、根気、努力を支えるもの
- ③人生や生き方を支えるもの
- ④家族や地域、国、人類の発展につながるもの

発達の段階に応じた指導で、たくさんの「夢」をもたせ、「夢」を大切にさせることで、小さなことにはくじけず挑戦し続ける「心身共にタフ」な子どもを育成することにつながる。

自立

《『徳』…やさしい子》
温かい思いやりの心もち、
他と協力して高まろうとする子ども



- ・進んでさわやかなあいさつができる子ども
- ・友だちの頑張りを認め、励ますことができる子ども
- ・相手の立場がわかり、互いに思いやりながら学校生活を楽しめる子ども

《『体』…たくましい子》
自らの心と体をもって、目標実現に向けて、粘り強く努力する子ども



- ・人の役に立つ喜びが分かる子ども
- ・めあてに向かって、体力づくりに励む子ども
- ・健康に関心を持ち、よりよい生活を目指す子ども
- ・命の尊さを認識し、自分の命は自分で守ることができる子ども

《『知』…かしこい子》
自ら学び、自ら考え、常により高い自分を求めて努力する子ども



- ・学びに興味・関心を持ち、課題をもてる子ども
- ・分かるまで粘り強く取り組む子ども
- ・学んだことを次の学習や生活に生かす子ども

ひびき合い みんなでつくる 笑楽幸

子ども同士、子どもと教師、保護者・地域の方々と力を合わせて創る心と心が響き合うハッピースクール

「開かれた学校」から「地域と共にある学校」へ 〈コミュニティ・スクール〉

(2) 目指す学校像

本校教育に関わる多くの人たちの心と心の「ひびき合い」を大切にしたい、信頼される学校づくりに努める。 【コミュニティ・スクール】

① 《人と人とのひびき合い》

人間的なかわり合いを大切にし、豊かな感性や健やかな心身が育つ学校づくり

② 《学びのひびき合い》

一人一人の子どもに「深い学び」が保障される学校づくり

③ 《保護者、地域と学校、小・中学校のひびき合い》

教育活動全体の改善につなげる「連携・協働」をキーワードにした学校づくり

④ 《教師同士のひびき合い》

社会の信頼に応え、教育者として誇りをもち、同僚性を大切にした研究・研修に取り組む学校づくり

(3) 目指す教師像

① 笑顔あふれる教師〈ひびき合える教師〉

② 子どもの姿から学ぼうとする教師〈ひびき合いを求める教師〉

③ 子どもをその気にさせる教師〈ひびき合いに導く教師〉

④ 保護者や同僚と協力・連携できる教師〈ひびき合いを広げる教師〉

2 学校経営の重点と主な施策

(1) 夢や目標に向かって学び続ける子どもの育成

① 夢や目標について考えさせる場を工夫し、自らの目標を実現しようとする態度を育てる。(一人一人の夢や短期長期の目標設定とその振り返りなど)

② 明るくさわやかな挨拶と、相手や場に応じた礼儀を身に付けさせる。(全教職員による共通実践の徹底、お返事マスターなど)

③ 係・当番活動や家の手伝いなどを通して、協力することや働くことの大切さに気付かせ、勤労意欲の高揚に努める。★①～③＝キャリア教育の推進

④ 規則正しい生活リズムを確立させる。…早寝・早起き・朝ご飯・宿題…
(家庭との連携による生活習慣、学習習慣づくり)

(2) 豊かな心を育む教育活動の充実

① 小中全教職員による徳育面での教育連携を推進する。

② 全教育活動を通じて「道徳性」の涵養に努める。(道徳の時間の充実と広がり)

③ 発達の段階に応じて、問題解決を図る話し合い活動の充実を図り、自治的な集団づくりと児童一人一人の自主自立の心を育てる。(学級会の充実)

④ 互いに認めあえる学級づくりを通し、思いやりと助け合いの精神を育て、いじめや不登校の未然防止に努める。(人権教育の推進、生徒指導の充実)

⑤ 安全・安心な学校づくりを具体的な施策をもって協働実践する。(複眼的児童理解と情報の共有、「心と体の健康チェック」「いじめアンケート」「Q Uテスト」「個人面談」を計画的に実施して、問題には素早く組織で対応)

⑥ キャリア教育の視点を重視したふるさと教育を推進し、自然体験活動や社会体験活動を通して人や社会とかわりながら豊かな感性を育み、感謝と思いやりの心を育てる。(地域の教育力の積極的な活用〈コミュニティ・スクール〉)

(3)たくましい心身を育む教育活動の充実

- ①小・中の児童生徒の交流を通して人間的な成長の過程を実感させ日々の成長に対する目標を持たせる。(東北つながり委員会など)
- ②苦しさや困難に立ち向かい、強い意志をもつ児童の育成に努める。(個に応じた目標設定と評価によるチャレンジ精神の育成)
- ③健康・安全に対する意識を高め、自他の生命を尊重する姿勢を育てる。(道徳教育の充実、学校栄養士や学校医、関係機関等との連携)
- ④「自分の命は、自分で守る」子どもの育成に努める。(防災教育の推進)

(4)豊かな学びの創造と確かな学力の向上

- ①「よりよく学ぶ」ための基盤となる学習規律の徹底と、「ひびき合いの学び」に必要な資質・能力を意図的・組織的に育てながら学習集団全体の質の向上を図る。
- ②小・中の枠を超え、系統的で段階的な学習指導を展開し、確かな学力の向上に努める。(小中連携授業研究会、小中での教職員の授業交流、小中校長による参観)
- ③豊かで人間的な「ひびき合い」を基軸に据え、習得と活用の学習活動をバランスよく展開し、知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力等の育成に努める。(教科等のねらい達成を意図した言語活動の充実)
- ④子どもが課題を設定し、探究する授業づくりに努める。(ストーリー性のある単元構成、導入の工夫、めあて・課題・学習活動・まとめの整合性の重視)
- ⑤ねらいを明確にした組織的な授業研修を継続する。(研究授業では、授業構想の段階から組織的にかかわり授業で検証する〈みんなで作くり、みんなで検証〉)

3 学校教育目標の具現化の職員組織

学校教育目標の具現化に当たり、三つの部会を組織し、それぞれが具体的な方策を検討して、PDCAサイクルによる同僚性を重視した取組により、学校教育目標の達成を目指す。

(1)思いやり部会【徳】

<人間関係の構築・自尊感情の醸成>

- ・道徳教育の充実を図る。
- ・教育活動に豊かなかかわりあいの機会を取り込む。
- ・一人一人の夢や目標を意識させ、振り返り評価することを重視し、達成感を味わわせる。

(2)心と体部会【体】

<健康な心と体・規範意識の高まり>

- ・いじめアンケート、QUテスト、「心と体の健康チェック」等を活用して、心身の健康管理に努める。
- ・ソーシャルスキルトレーニング、エンカウンター等を計画的に実施し、人間関係形成能力等の社会性を育てる。
- ・SNSやゲーム機等の使用に関する指導を発達の段階に応じて組織的に行う。

(3)学習部会【知】

<学習集団としての高まり>

- ・学習規律の定着に組織的に取り組む。(返事、姿勢、机上の整理、次時の準備)
- ・学習の振り返りと連動した自学や宿題への取組を推進する。
- ・子どもたちを「主体的、対話的で深い学び」に導く授業改善を組織的に推進する。